「子供の生活力に関する実態調査」報告書〔概要〕
～子供に必要な生活スキルとは～

平成 27 年 5 月 1 日

国立青少年教育振興機構では、今回、自立した生活を営む上で必要となる資質・能力（「生きる力」）の要素として、具体的な生活に関する行為・技術（「生活スキル」）について、子供の習得状況や「生活スキル」と体験活動や生活環境、保護者の子供との関わりに関して調査を実施した。

本調査では、生活スキルを「コミュニケーションスキル」「礼儀・マナースキル」「家事・暮らしスキル」「健康管理スキル」「課題解決スキル」に分類し（p.1）、青少年（小学 4 年生・5 年生・6 年生、中学 2 年生、高校 2 年生）及び保護者（小学 4 年生・5 年生・6 年生の保護者）を対象とした質問紙調査を行い、体験活動や保護者の意識等との関係等の分析を行った。

＜主な調査結果＞

結果①【子供の生活スキル等の実態】

○　保護者が身につけるべきと思っている生活スキルは、「『ありがとう』『ごめんなさい』を言うこと」などの「礼儀・マナースキル」が多い。

同時に子供調査においても、「『ありがとう』『ごめんなさい』を言うこと」は、各学年の現在できる生活スキルの上位 4 項目の中に入っている（p.2-3）。

○　子供の生活スキルの多くは、学年が上がるごとにできている（質問項目では「できる」）割合が高くなるが、「毎朝、朝食を食べること」などの「健康管理スキル」においては、学年が上がるごとにできている割合が低くなる項目も見られる（p.3）。

結果②【保護者の子供との関わり・意識等と子供の生活スキルの関係】

○　保護者が「勉強以外の様々なことをできるだけ体験させている」など体験を積極的にさせている「体験支援」的な関わりをしていたり、「学校のない日にも早寝早起きをさせている」など生活習慣を身につけさせることに力を入れている「生活指導」的な関わりをしているほど、その子供の生活スキルが高い。（p.4-5）

また、「よく『もっとがんばりなさい』と言っている」などの、保護者の「叱咤激励」的な関わりの程度とその子供の生活スキルとの関連は見られない（p.6）。

○　保護者が必ず身につけておくべきと思っている生活スキルや身につけていた生活スキルは、その子供もその生活スキルができる割合が高い（p.7-8）。

結果③【生活スキルのある子供、ない子供の特徴等】

○　自然体験やお手伝い、読書をすることが多い子供ほど、生活スキルが高い（p.9-12）。
また、ゲームをすることが多い子供ほど、生活スキルが低い（p.13）。

○　生活スキルが高いほど、学校生活が充実しており、自立に対する意識も高い（p.14-15）。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
http:// www.niye.go.jp TEL03-6407-7742
青少年教育研究センター / 総務企画部調査・広報課

はじめに

○これまでの調査との関係

国立青少年教育振興機構では、子供の頃の体験とそれを通じて得られる資質・能力の関係性を把握し、学校や地域、家庭において、どの年齢期にどういった体験が重要になるのかを明らかにするため、外部の有識者を含めた研究会を設置し、調査研究を行ってきた。子供の頃の体験が、体験を通して得られる様々な資質・能力と関係があるということは明らかになっている（「子どもの体験活動の実態に関する調査研究（平成 22 年 10 月）」）が、どのような体験が具体的にどのような資質・能力に結びついているのかについての実証的なデータの蓄積は十分とは言えない。

本調査において、「生活力」をキーワードに、具体的な「生活スキル」の実態に注目することは、体験活動の成果を目に見える形にするということである。また、「生活スキル」の習得状況に関するデータは、子供の体験活動を推進する上で、どの年齢期にどういった体験をさせるべきか、について検討するための基礎的なデータとなりうるということである。本調査では、これまで実施した調査の問題意識を引き継ぎ、子供の「生活スキル」が、体験活動や生活環境、保護者の子供との関わり等とどのように関係しているか等についてのデータを収集し、分析した。

○本調査における「生活力」の位置付け

本調査では、「生活力」に関する調査項目を検討するに当たり、先行研究及び青少年教育関係者からの自由記述形式によるアンケート結果をもとに、93 項目の「生活スキル」を取り上げ、事前調査（web 調査）を実施した（web 調査の結果については報告書の第 3 章（3.補）を参照）。web 調査の結果をもとに再度調査項目の検討を行い、27 項目の生活スキルを決定し、各年齢期における実態について質問した。

結果として、27 項目の生活スキルは、生活習慣としての要素が大きい項目や、人間関係に関する要素が大きい項目など、幅広い領域の「スキル」を包含することとなった。本調査では、こうした幅広い観点から「生活スキル」を捉えることとしている。

さらに、本調査では、因子分析という分析手法を用いて、「生活スキル」を構成する要素について分析を行った（分析については報告書第 3 章（表 3.3）を参照）。具体的には、27 項目のスキルの中から「コミュニケーションスキル」「礼儀・マナースキル」「家事・暮らしスキル」「健康管理スキル」「課題解決スキル」の 5 つの因子に分けられる 23 項目のスキルを抽出し、分析に用いた。

なお、本調査では抽出した 5 つの因子について生活スキルを表すカテゴリーとして位置付け、分析を進めることとする。5 つのカテゴリーに含まれる 23 項目をまとめたものが表 1-1 である。

表 1-1　5 つのカテゴリーと構成要素

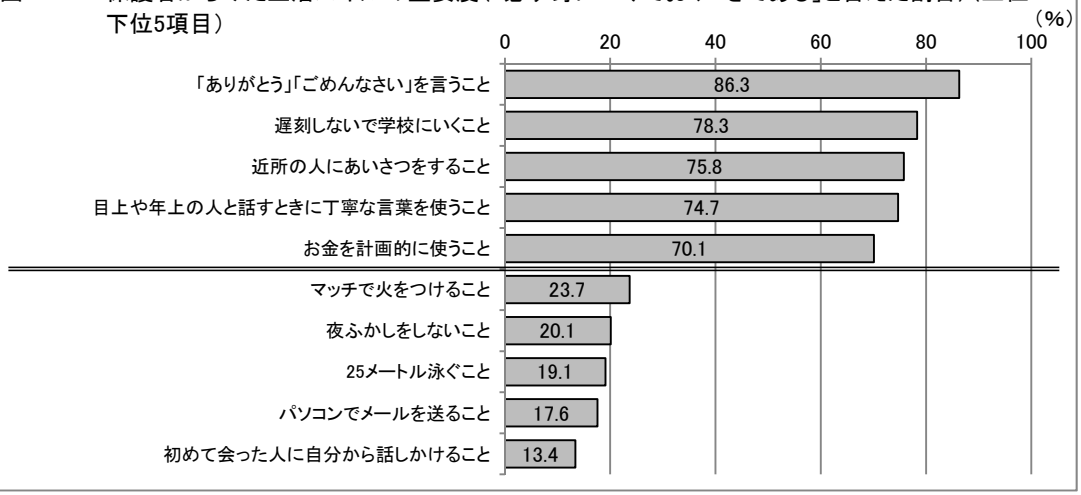
カテゴリー	含まれるスキル	項目数
コミュニケーションスキル	友だちの相談にのったり、悩みを聞いてあげること	5
	人の話を聞く時に相づちを打つこと	
	自分と違う意見や考えを、受け入れること	
	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	
	初めて会った人に自分から話しかけること	
礼儀・マナースキル	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	4
	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	
	近所の人にあいさつをすること	
	遅刻しないで学校にいくこと	
家事・暮らしスキル	洗濯物をきれいにたたむこと	6
	ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと	
	茶碗や汁椀を正しい位置に配膳すること	
	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	
	お金を計画的に使うこと	
	家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	
健康管理スキル	ふだんから積極的に体を動かすこと	5
	夜ふかしをしないこと	
	上手に気分転換をすること	
	毎朝、朝食を食べること	
	家に帰ったら手を洗うこと	
課題解決スキル	一つの方法がうまくいかなかったとき、別の方法でやってみること	3
	トラブルがあったとき、原因を探ること	
	目標達成に向けて努力すること	

結果① 【子供の生活スキル等の実態】

○ 保護者が身につけるべきと思っている生活スキルは、「『ありがとう』『ごめんなさい』を言うこと」などの「礼儀・マナースキル」が多い。
　同時に子供調査においても、「『ありがとう』『ごめんなさい』を言うこと」は、各学年の現在できる生活スキルの上位４項目の中に入っている。

・　保護者からみた生活スキルの重要度、つまり保護者がどのような生活スキルを身につけておくべきかと考えているのかを見ると、保護者が「必ず身につけておくべきである」と答えた割合がもっとも高い項目は、「「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと」(86.3%)、「遅刻しないで学校にいくこと」(78.3%)、「近所の人にあいさつをすること」(75.8%) など「礼儀・マナースキル」に関する項目が上位にある。

図3.2.66　保護者からみた生活スキルの重要度(「必ず身につけておくべきである」と答えた割合)(上位・下位5項目)



（参考）

成人が大人になる上で身につけておくべきだと思っている生活スキル（Web調査結果：表３．補４参照）については、性別・世代別に目立った違いは見られないが、男性ではお金や時間に関する項目がより上位に入っているのに対し、女性では挨拶に関する項目がより上位に入っている傾向が見られる。

表3.補.4　大人になる上で身につけておくべきだと思う割合（上位5項目）

	20代男性		30代男性		40代男性		50代男性		60代男性	
1	お金を計画的に使うこと	2.53	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.56	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.57	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.48	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.60
2	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.50	くつひもを蝶結びにすること	2.54	くつひもを蝶結びにすること	2.57	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.43	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.50
3	くつひもを蝶結びにすること	2.49	お金を計画的に使うこと	2.54	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.56	お金を計画的に使うこと	2.43	お金を計画的に使うこと	2.50
4	人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	2.46	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.53	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.53	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	2.40	目上や年上の人と会ったときに会釈やお辞儀をすること	2.48
5	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.45	人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	2.51	お金を計画的に使うこと	2.53	くつひもを蝶結びにすること	2.39	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	2.48

	20代女性		30代女性		40代女性		50代女性		60代女性	
1	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.71	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.74	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.67	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.65	住んでいる地域の方法でゴミを正しく分別すること	2.67
2	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.65	くつひもを蝶結びにすること	2.64	くつひもを蝶結びにすること	2.64	目上や年上の人と会ったときに会釈やお辞儀をすること	2.60	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	2.65
3	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	2.64	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	2.63	住んでいる地域の方法でゴミを正しく分別すること	2.63	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	2.59	信号が青に変わってから横断すること	2.64
4	お金を計画的に使うこと	2.62	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.62	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	2.62	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.58	目上や年上の人と会ったときに会釈やお辞儀をすること	2.62
5	決められた金額の中で必要な物を買ってくること	2.60	お金を計画的に使うこと	2.61	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.61	約束の時間や決められた時間に遅れないこと	2.58	はしを上手く使うこと	2.61

各スキル(93 項目)について、大人になる上で身につけておくべきだと思いますかという質問項目の回答を得点化(「必ず身につけておくべきである」を 3 点、「ぜひ身につけておくべきである」を 2 点、「できれば身につけておくべきである」を 1 点、「あまり身につけておくべきではない」を 0 点)し、その平均点を、性別・世代別に上位 5 項目ずつ抜き出した。

○　子供の生活スキルの多くは、学年が上がるごとにできている（質問項目では「できる」）割合が高くなるが、「毎朝、朝食を食べること」などの「健康管理スキル」においては、学年が上がるごとにできている割合が低くなる項目も見られる。

・　「毎朝、朝食を食べること」は、小学５年では 85.8%であり最も「できる」と答えた割合が高かったが、中学２年では 84.6%、高校２年では上位５項目には入っていないが 76.1%と学年が上がるにつれて「できる」と答えた割合が低くなっている。また、「夜ふかしをしないこと」についても、小学５年では 45.0%、中学２年では 27.8%、高校２年では 20.8%と学年が上がるにつれて「できる」と答えた割合が低くなっている。

表 3.1.1　生活スキルが「できる」割合（上位・下位５項目）

	小学5年		中学2年		高校2年	
1	毎朝、朝食を食べること	85.8%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	92.6%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	88.7%
2	遅刻しないで学校にいくこと	84.9%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	90.1%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	87.1%
3	洗濯物をきれいにたたむこと	84.5%	マッチで火をつけること	90.0%	人の話を聞く時に相づちを打つこと	85.7%
4	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	84.5%	洗濯物をきれいにたたむこと	88.9%	洗濯物をきれいにたたむこと	85.1%
5	近所の人にあいさつをすること	82.3%	毎朝、朝食を食べること	84.6%	自分と違う意見や考えを、受け入れること	83.9%
23	初めて会った人に自分から話しかけること	58.3%	自分の家で東西南北の方角を示すこと	58.9%	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	59.1%
24	家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	49.2%	初めて会った人に自分から話しかけること	57.6%	自分の家で東西南北の方角を示すこと	57.2%
25	夜ふかしをしないこと	45.0%	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	53.9%	初めて会った人に自分から話しかけること	57.1%
26	ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと	43.9%	パソコンでメールを送ること	50.7%	ふだんから積極的に体を動かすこと	56.0%
27	パソコンでメールを送ること	21.0%	夜ふかしをしないこと	27.8%	夜ふかしをしないこと	20.8%

（参考）

生活スキルについて「できる」と答えた割合が高いものを見ると、男子は「マッチで火をつけること」、女子は「洗濯物をきれいにたたむこと」といったように、性別で違いが見られる項目もある。

表 3.1.2　生活スキルが「できる」割合（男子の上位・下位５項目）

1	毎朝、朝食を食べること	85.2%	マッチで火をつけること	93.4%	マッチで火をつけること	89.4%
2	遅刻しないで学校にいくこと	83.4%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	90.9%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	88.6%
3	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	83.3%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	89.0%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	87.7%
4	マッチで火をつけること	83.0%	25メートル泳ぐこと	86.3%	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	84.5%
5	近所の人にあいさつをすること	81.7%	洗濯物をきれいにたたむこと	84.6%	人の話を聞く時に相づちを打つこと	84.0%
23	初めて会った人に自分から話しかけること	56.2%	家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	62.1%	自分の家で東西南北の方角を示すこと	62.4%
24	家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	50.3%	初めて会った人に自分から話しかけること	55.9%	パソコンでメールを送ること	58.4%
25	夜ふかしをしないこと	43.7%	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	50.6%	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	55.0%
26	ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと	38.9%	パソコンでメールを送ること	45.5%	初めて会った人に自分から話しかけること	54.7%
27	パソコンでメールを送ること	18.7%	夜ふかしをしないこと	31.4%	夜ふかしをしないこと	22.4%

表 3.1.3　生活スキルが「できる」割合（女子の上位・下位５項目）

	小学5年・女子		中学2年・女子		高校2年・女子	
1	洗濯物をきれいにたたむこと	89.8%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	94.4%	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	88.9%
2	休みの日に着る服を自分で選ぶこと	86.6%	友だちの相談にのったり、悩みを聞いてあげること	93.3%	人の話を聞く時に相づちを打つこと	87.3%
3	毎朝、朝食を食べること	86.5%	洗濯物をきれいにたたむこと	93.2%	洗濯物をきれいにたたむこと	87.2%
4	遅刻しないで学校にいくこと	86.4%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	91.2%	友だちの相談にのったり、悩みを聞いてあげること	87.0%
5	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	85.6%	目上や年上の人と話すときに丁寧な言葉を使うこと	88.0%	「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと	86.5%
23	初めて会った人に自分から話しかけること	60.3%	初めて会った人に自分から話しかけること	59.3%	パソコンでメールを送ること	62.6%
24	ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと	48.9%	友だちが悪いことをしていたら、やめさせること	57.2%	初めて会った人に自分から話しかけること	59.5%
25	家の人に起こされずに、決めた時間に自分で起きること	48.2%	パソコンでメールを送ること	56.0%	自分の家で東西南北の方角を示すこと	52.1%
26	夜ふかしをしないこと	46.2%	自分の家で東西南北の方角を示すこと	54.2%	ふだんから積極的に体を動かすこと	46.2%
27	パソコンでメールを送ること	23.3%	夜ふかしをしないこと	24.0%	夜ふかしをしないこと	19.4%

結果② 【保護者の子供との関わり・意識等と子供の生活スキルの関係】

○ 保護者が「勉強以外の様々なことをできるだけ体験させている」など体験を積極的にさせている「体験支援」的な関わりをしていたり、「学校のない日にも早寝早起きをさせている」など生活習慣を身につけさせることに力を入れている「生活指導」的な関わりをしているほど、その子供の生活スキルが高い傾向が見られる。

また、「よく『もっとがんばりなさい』と言っている」などの、保護者の「叱咤激励」的な関わりの程度とその子供の生活スキルとの関連は見られない。

・ 保護者の「体験支援」的な関わりが多いほど、子供の各生活スキルも高い傾向が見られる。

図3.5.55 保護者の「体験支援」的な関わりと子供のコミュニケーションスキルの関係

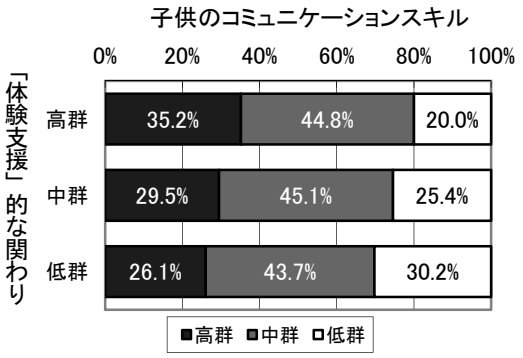


図3.5.56 保護者の「体験支援」的な関わりと子供の礼儀・マナースキルの関係

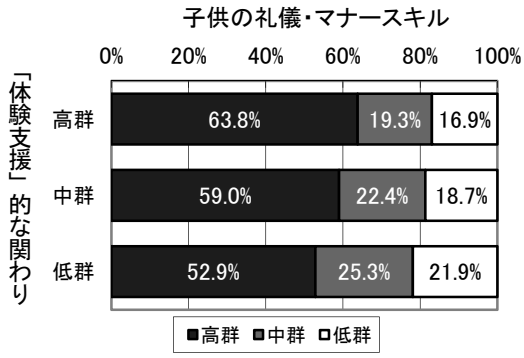


図3.5.57 保護者の「体験支援」的な関わりと子供の家事・暮らしスキルの関係

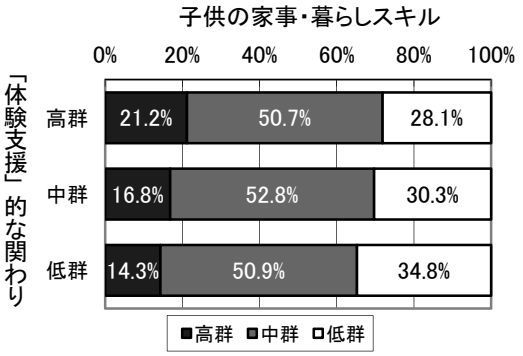


図3.5.58 保護者の「体験支援」的な関わりと子供の健康管理スキルの関係

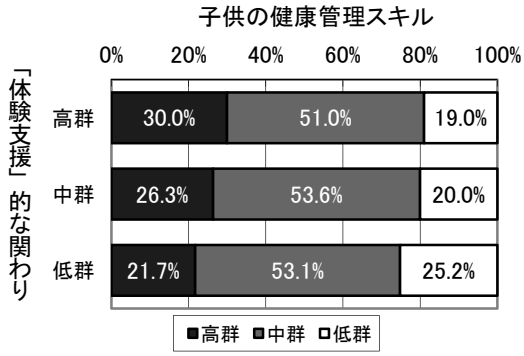
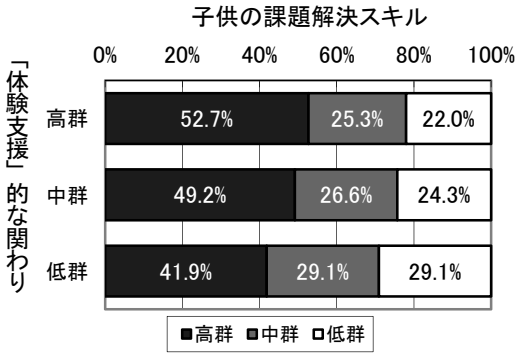


図3.5.59 保護者の「体験支援」的な関わりと子供の課題解決スキルの関係



「体験支援」的な関わりに関する項目（8 項目）

・自分の体験したことを話している
・子どものやりたいことをできるだけ尊重している
・勉強以外の様々なことをできるだけ体験させている
・よくほめている
・家の中でのルール・約束事を決めている
・子どもとスポーツ以外の趣味を一緒に楽しんでいる
・子ども自身でできることは自分でさせている
・良いことをした時に、ごほうびをあげている

※「高群」、「中群」、「低群」の分類については、報告書 p69 参照

・　保護者の「生活指導」的な関わりが多いほど、子供の生活スキルが高い傾向が見られる。

図3.5.70　保護者の「生活指導」的な関わりと子供のコミュニケーションスキルの関係

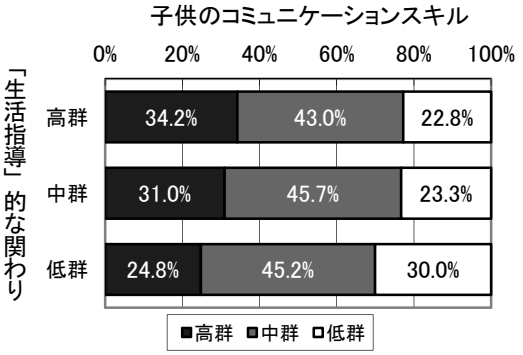


図3.5.71　保護者の「生活指導」的な関わりと子供の礼儀・マナースキルの関係

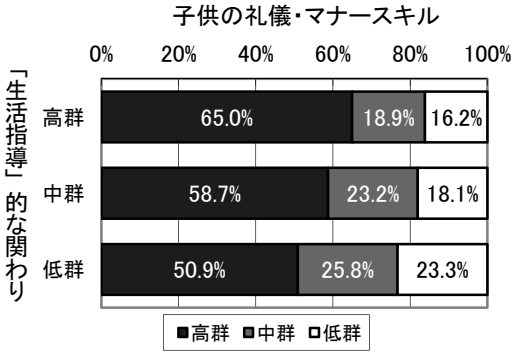


図3.5.72　保護者の「生活指導」的な関わりと子供の家事・暮らしスキルの関係

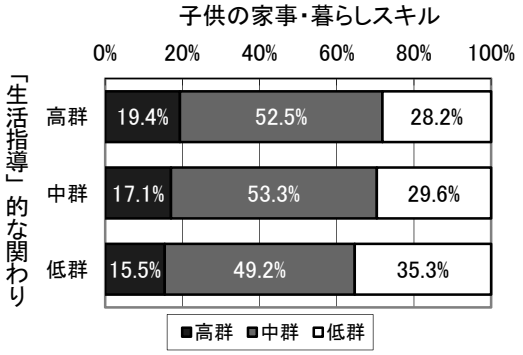


図3.5.73　保護者の「生活指導」的な関わりと子供の健康管理スキルの関係

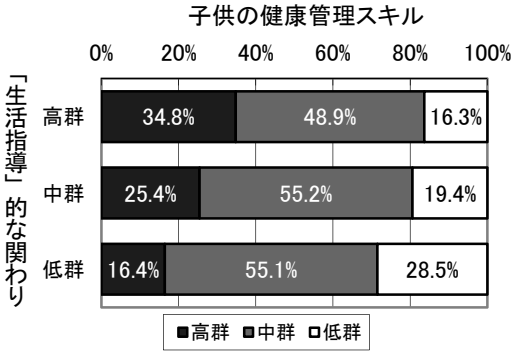
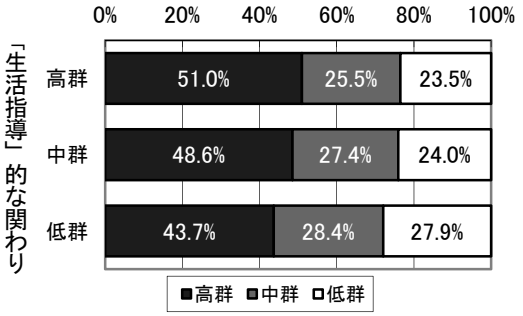


図3.5.74　保護者の「生活指導」的な関わりと子供の課題解決スキルの関係



「生活指導」的な関わりに関する項目（3 項目）

・学校のない日にも早寝早起きをさせている
・一日三食きちんと食事させている（給食を含む）
・きちんとあいさつをさせている

・　保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供の生活スキルには目立った関連は見られない。
　若干ではあるが、保護者の「叱咤激励」的な関わりが多いほど、子供の「家事・暮らしスキル」「課題解決スキル」が低い傾向が見られる。
　ただし、ここでは、保護者が「叱咤激励」的な関わりをした結果として、子供の「家事・暮らしスキル」「課題解決スキル」が低くなっているとは限らず、子供のこうした生活スキルが低い結果として「叱咤激励」的な関わりの機会が増えているということも考えられる。

図3.5.60　保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供のコミュニケーションスキルの関係

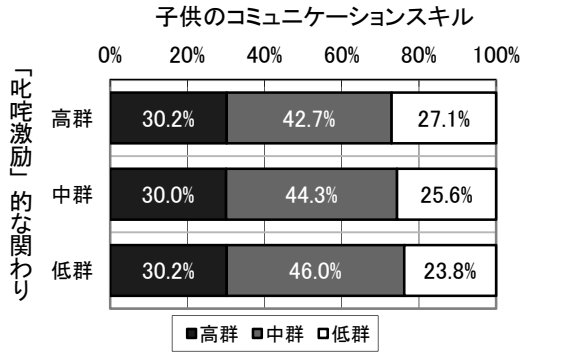


図3.5.61　保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供の礼儀・マナースキルの関係

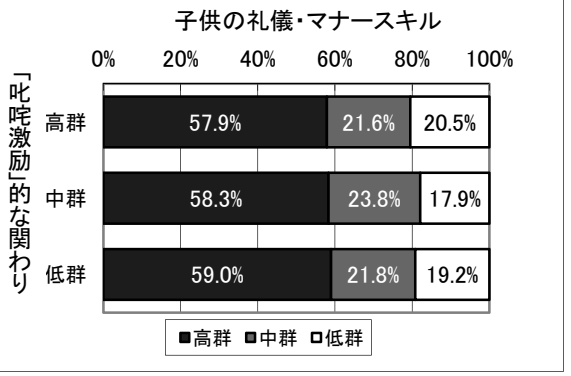


図3.5.62　保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供の家事・暮らしスキルの関係

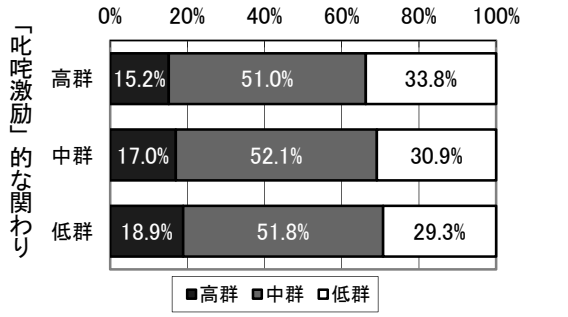


図3.5.63　保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供の健康管理スキルの関係

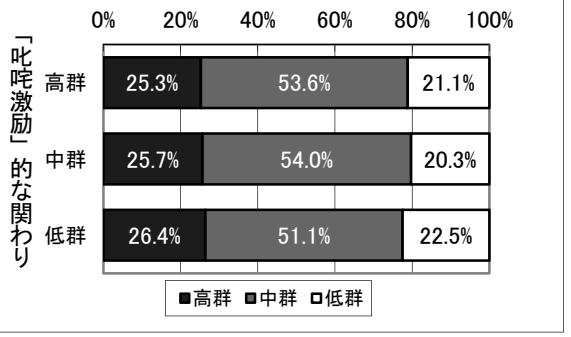
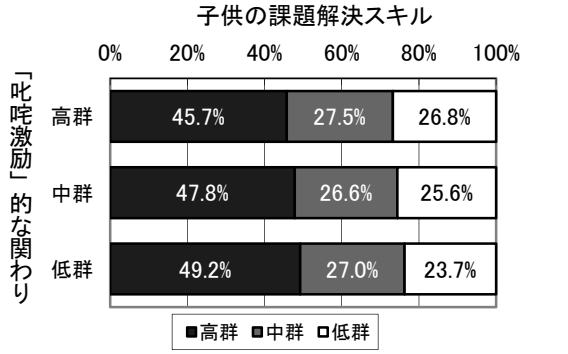


図3.5.64　保護者の「叱咤激励」的な関わりと子供の課題解決スキルの関係



「叱咤激励」的な関わりに関する項目（4 項目）

・よく「もっとがんばりなさい」と言っている
・よく小言を言っている
・しっかり勉強するように言っている
・子どもと意見が違うとき、あなたの意見を優先させている

○　<u>保護者が必ず身につけておくべきと思っている生活スキルや身につけていた生活スキルは、その子供もその生活スキルができる割合が高い傾向が見られる。</u>

・　保護者が「必ず身につけておくべきである」と思っている生活スキルは、その子供も現在「できる」と答えた割合が高い傾向が見られる。

図3.5.7　「家に帰ったら手を洗うこと」に関する保護者からみた重要度と子供の現在の習得状況の関係

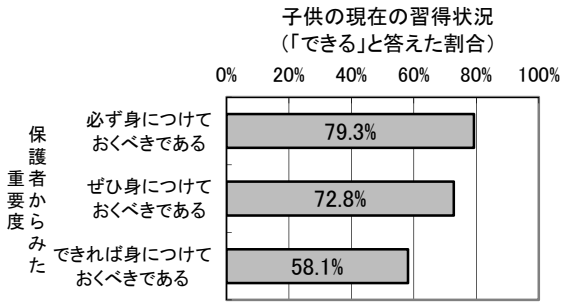


図3.5.12　「遅刻しないで学校にいくこと」に関する保護者からみた重要度と子供の現在の習得状況の関係

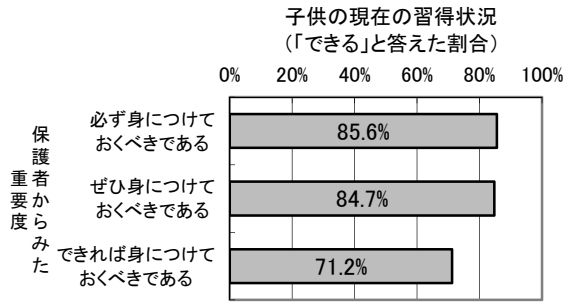


図3.5.25　「25メートル泳ぐこと」に関する保護者からみた重要度と子供の現在の習得状況の関係

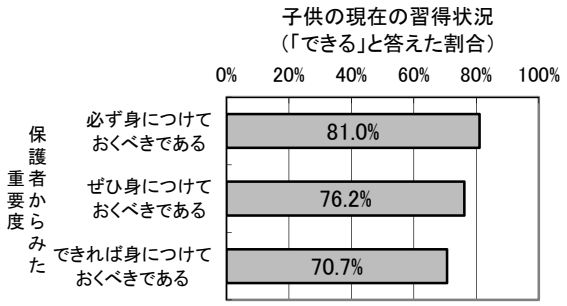
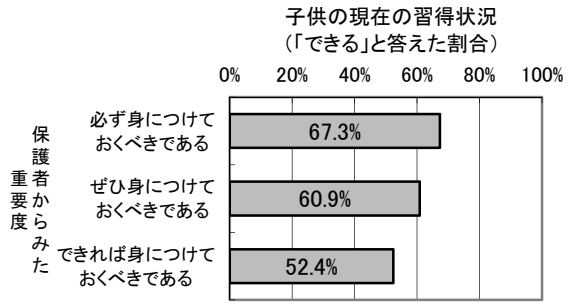


図3.5.27　「自分の家で東西南北の方角を示すこと」に関する保護者からみた重要度と子供の現在の習得状況の関係



・　すべての生活スキルにおいて、保護者自身が 10 歳時に「できていた」と答えた割合が高いほど、その子供も現在「できる」と答えた割合が高くなっている。
　また、多くの項目において、保護者自身が 20 歳時に「できていた」と答えた割合が高いほど、その子供も現在「できる」と答えた割合が高くなっている。

図3.5.30　茶碗や汁椀を正しい位置に配膳すること

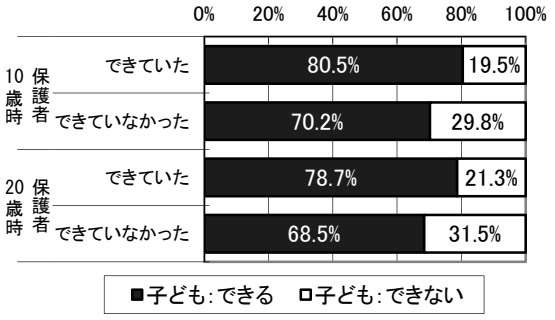


図3.5.34　家に帰ったら手を洗うこと

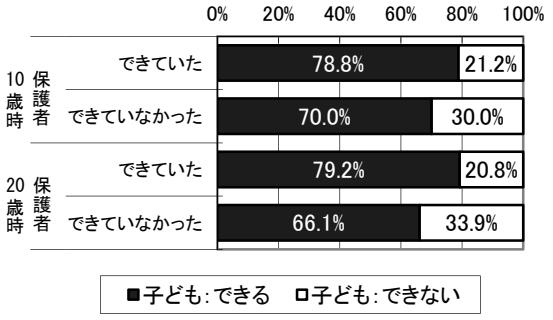


図3.5.37　毎朝、朝食を食べること

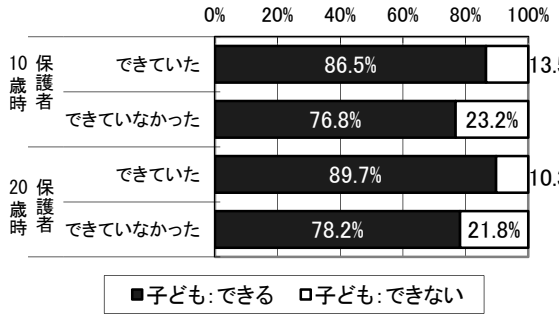


図3.5.39　遅刻しないで学校にいくこと

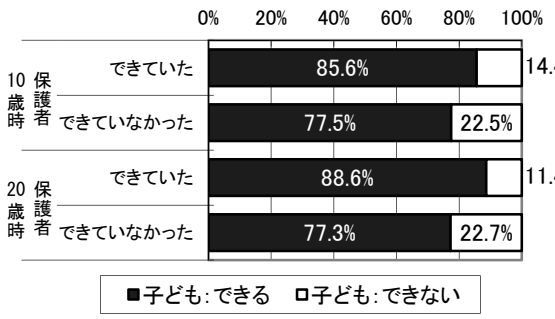


図3.5.41　「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと

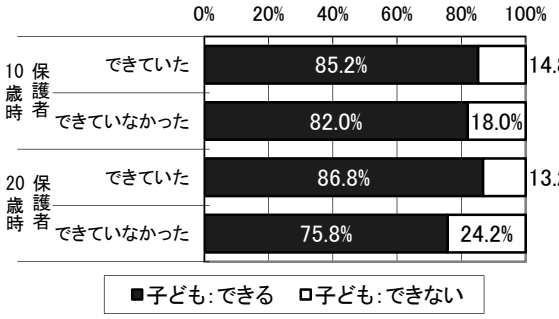
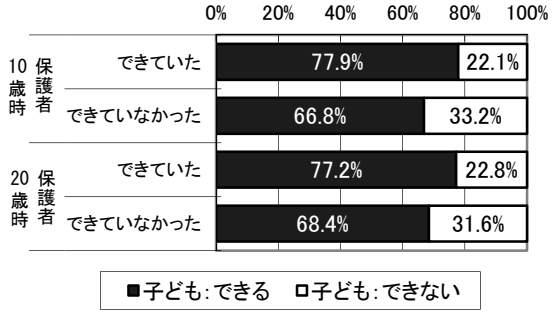


図3.5.52　25メートル泳ぐこと



結果③【生活スキルのある子供、ない子供の特徴等】

○ 自然体験やお手伝い、読書をすることが多い子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られる。また、ゲームをすることが多い子供ほど、生活スキルが低い傾向が見られる。

・ 「ふだんから地域の行事に参加すること」や「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」、「ふだんから外国の子どもや大人と話したり、一緒に遊んだりすること」といった体験が多い子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られる。

図3.4.42 「ふだんから地域の行事に参加すること」とコミュニケーションスキルの関係

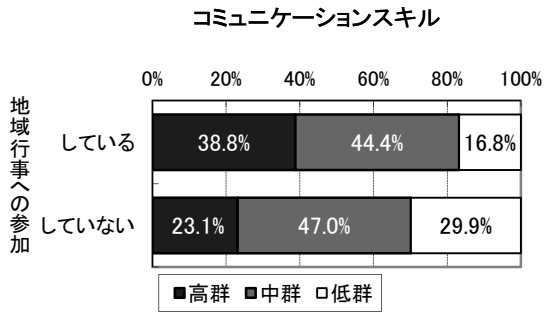


図3.4.49 「ふだんから地域の行事に参加すること」と礼儀・マナースキルの関係

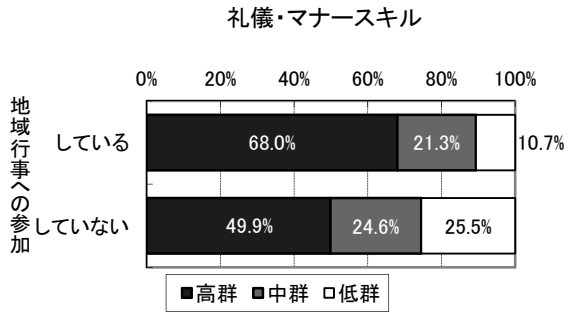


図3.4.55 「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」と家事・暮らしスキルの関係

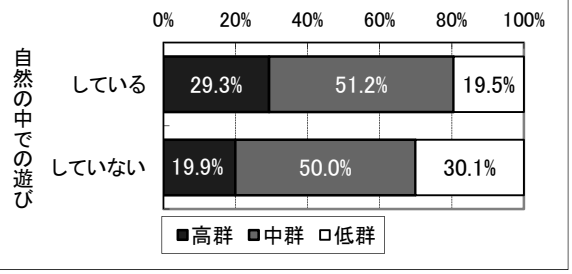


図3.4.62 「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」と健康管理スキルの関係

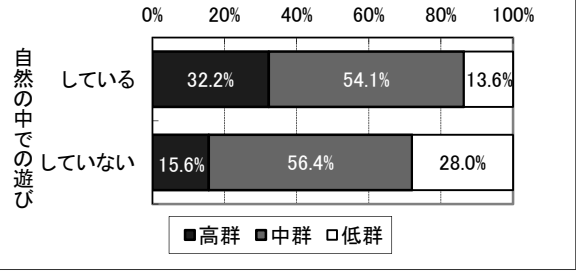
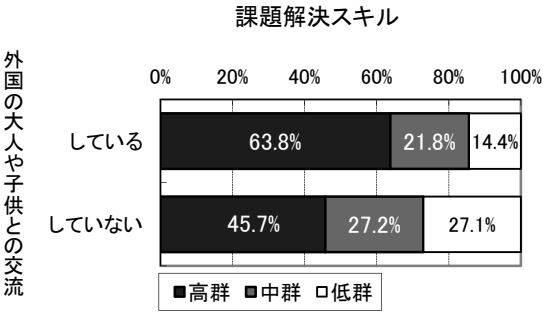


図3.4.71 「ふだんから外国の子どもや大人と話したり、一緒に遊んだりすること」と課題解決スキルの関係



図の表記について

体験の実施状況についてきいた、「ふだんから地域の行事に参加すること」、「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」、「ふだんから外国の子どもや大人と話したり、一緒に遊んだりすること」の問いに対する調査票での回答形式は「できる」または「できない」となっているが、結果の解釈をしやすくするために、ここでは各項目について、「している」または「していない」という表現に置き換えて表記している。

・　「お手伝いの頻度」が高い子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られる。
　ただし、お手伝いをすれば、生活スキルが高まることを示しているとは限らず、もともとお手伝いをすることが好きな子供や、お手伝いをすることが当たり前である家庭の子供に生活スキルが高い子供が集まっている可能性があることに留意する必要がある。

図3.4.126　お手伝いの頻度とコミュニケーションスキルの関係

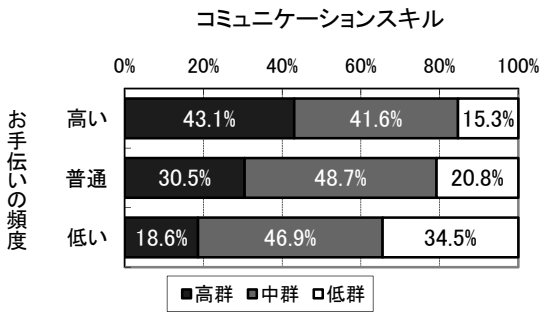


図3.4.127　お手伝いの頻度と礼儀・マナースキルの関係

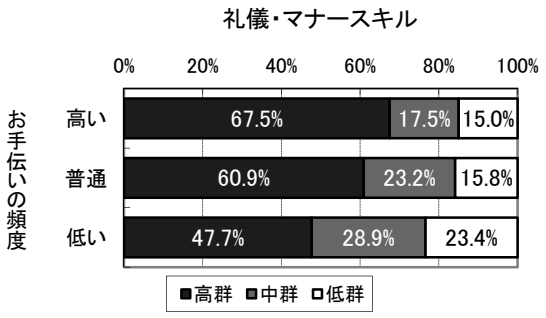


図3.4.128　お手伝いの頻度と家事・暮らしスキルの関係

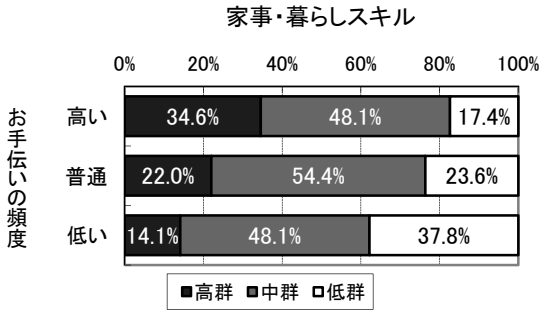


図3.4.129　お手伝いの頻度と健康管理スキルの関係

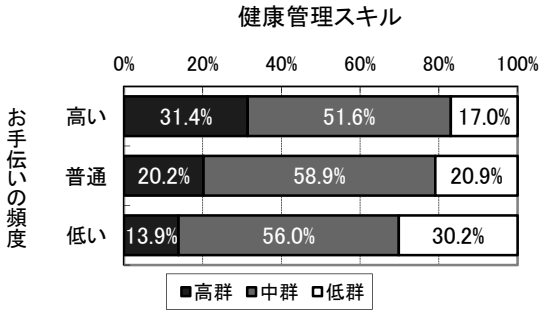
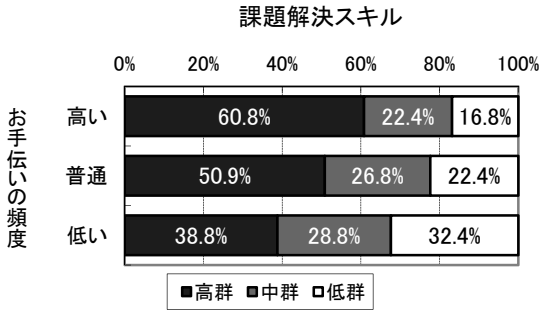


図3.4.130　お手伝いの頻度と課題解決スキルの関係



「お手伝いの頻度」に関する項目（10 項目）

・買い物のお手伝いをすること
・新聞や郵便物をとってくること
・靴などをそろえたり、磨いたりすること
・食器をそろえたり、片付けたりすること
・家の中のお掃除や整頓を手伝うこと
・ゴミ袋を出したり、捨てたりすること
・お風呂洗いをしたり、窓ふきを手伝ったりすること
・お料理の手伝いをすること
・ペットの世話とか植物の水やりをすること
・自分のふとんの上げ下ろしやベッドを整頓すること

※「高い」、「普通」、「低い」の分類については、報告書 p.70 参照

・　「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」が「よくある」と答えている子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られる。

図3.4.132　「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」と
コミュニケーションスキルの関係

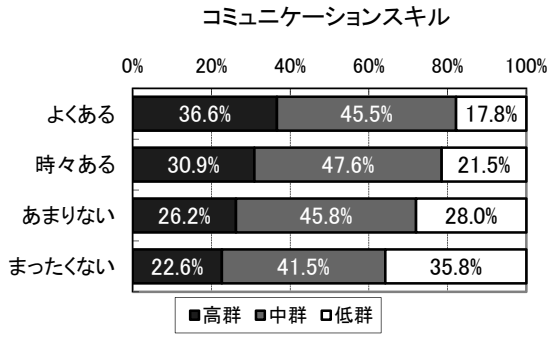


図3.4.143　「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」と
礼儀・マナースキルの関係

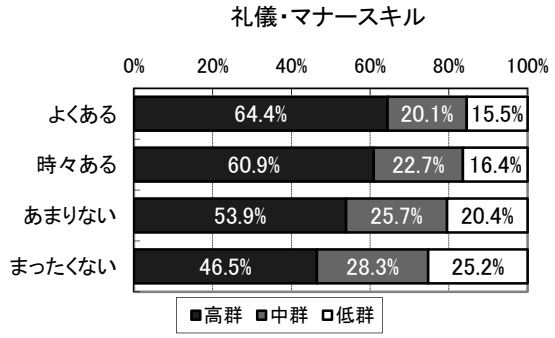


図3.4.154　「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」と
家事・暮らしスキルの関係

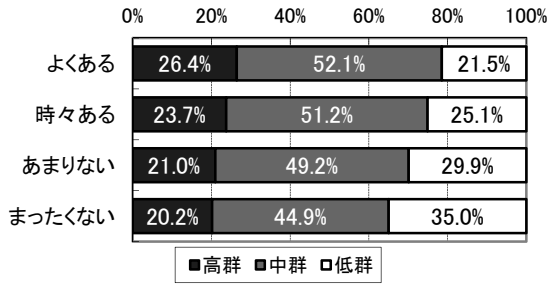


図3.4.165　「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」と
健康管理スキルの関係

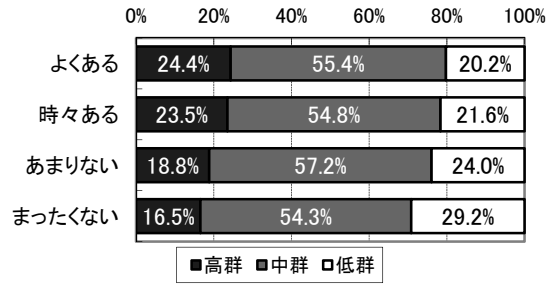
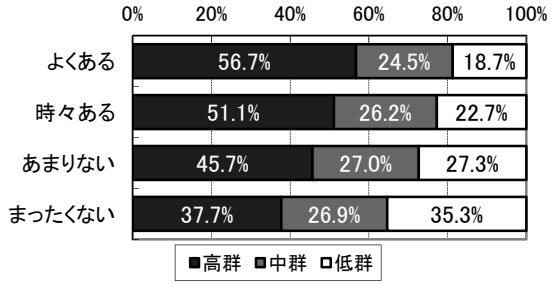


図3.4.176　「本（マンガや雑誌以外）を読むこと」と
課題解決スキルの関係



・　中学生及び高校生については、部活動に所属している子供ほど、「礼儀・マナースキル」が高い傾向が見られる。また、「運動部に所属している」ほど「健康管理スキル」が高い傾向が見られる。

図3.4.47　部活動への所属とコミュニケーションスキルの関係

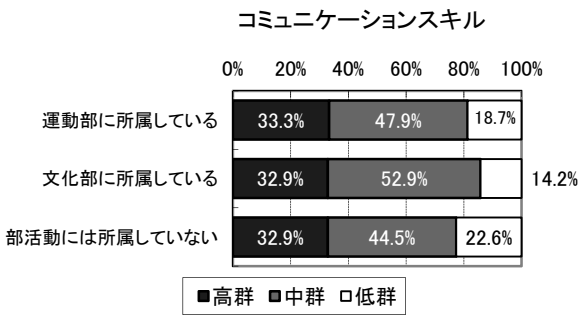


図3.4.54　部活動への所属と礼儀・マナースキルの関係

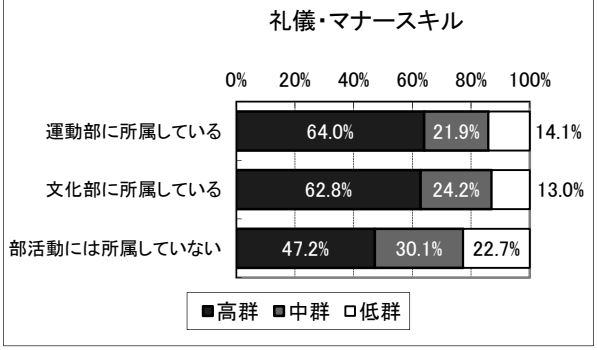


図3.4.61　部活動への所属と家事・暮らしスキルの関係

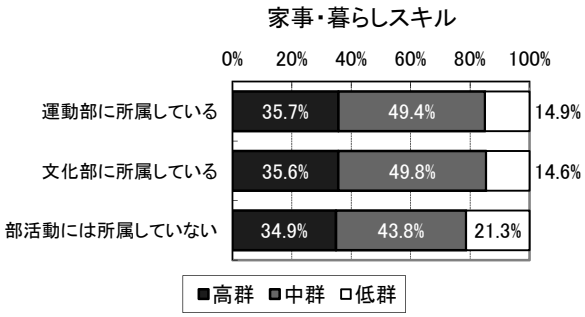


図3.4.68　部活動への所属と健康管理スキルの関係

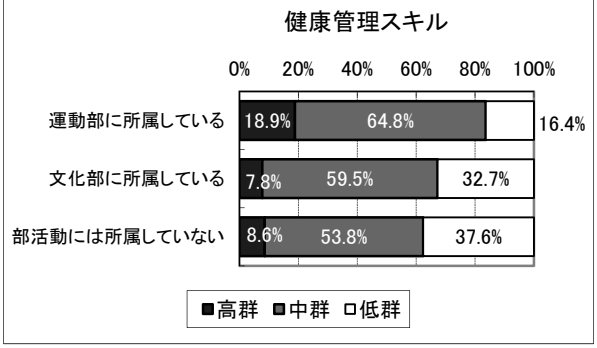
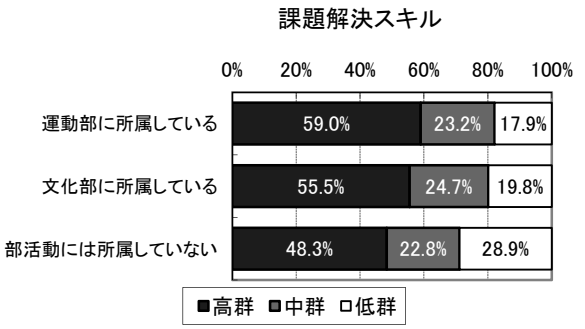


図3.4.75　部活動への所属と課題解決スキルの関係



・　「ゲーム（Wii、PSP、DS など）をすること」の頻度が高い子供ほど、「コミュニケーションスキル」「家事・暮らしスキル」は低い傾向が見られる。

図3.4.135　「ゲーム（Wii、PSP、DSなど）をすること」とコミュニケーションスキルの関係

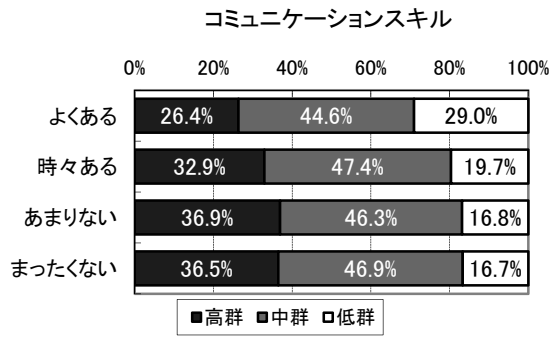


図3.4.146　「ゲーム（Wii、PSP、DSなど）をすること」と礼儀・マナースキルの関係

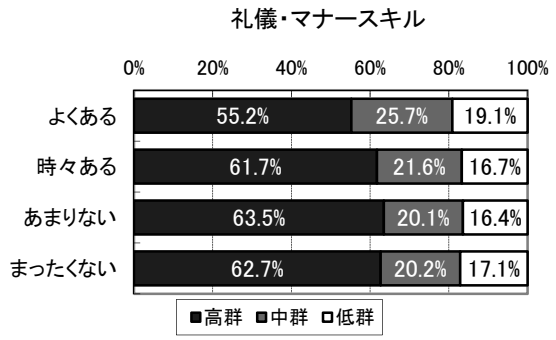


図3.4.157　「ゲーム（Wii、PSP、DSなど）をすること」と家事・暮らしスキルの関係

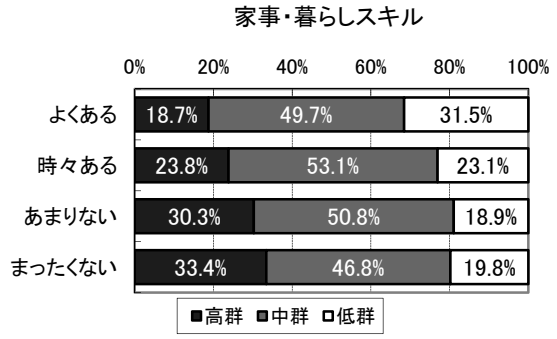


図3.4.168　「ゲーム（Wii、PSP、DSなど）をすること」と健康管理スキルの関係

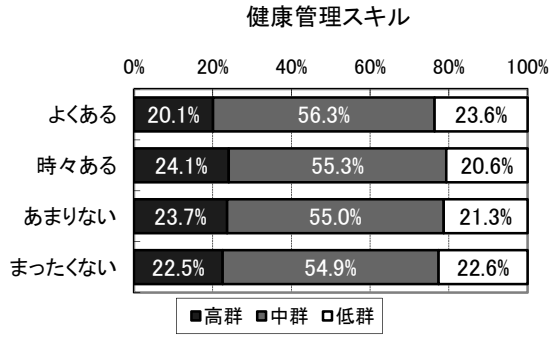
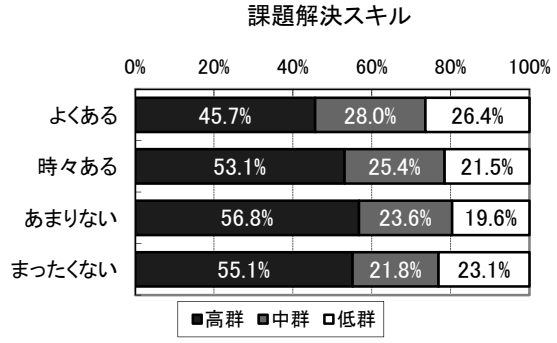


図3.4.179　「ゲーム（Wii、PSP、DSなど）をすること」と課題解決スキルの関係



○　<u>生活スキルが高いほど、学校生活が充実しており、自立に対する意識も高い傾向が見られる。</u>

・　生活スキルと学校生活に対する意識に関する回答を見ると、「コミュニケーションスキル」が高いほど「クラスに同性・異性の友だちが多い方だ」、「礼儀・マナースキル」が高いほど「学校が楽しい」、「健康管理スキル」が高いほど「勉強は得意な方だ」及び「課題解決スキル」が高いほど「学校生活に満足している」などで、それぞれ「とても思う」割合が高い傾向が見られる。

図3.4.216　コミュニケーションスキルと「クラスに同性の友だちが多い方だ」の関係

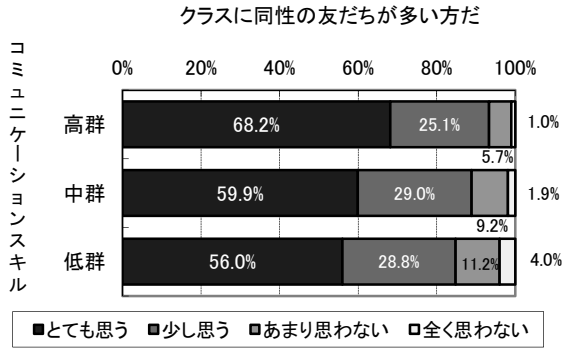


図3.4.217　コミュニケーションスキルと「クラスに異性の友だちが多い方だ」の関係

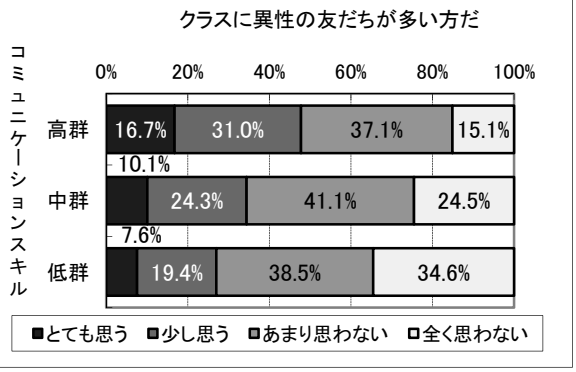


図3.4.227　礼儀・マナースキルと「学校が楽しい」の関係

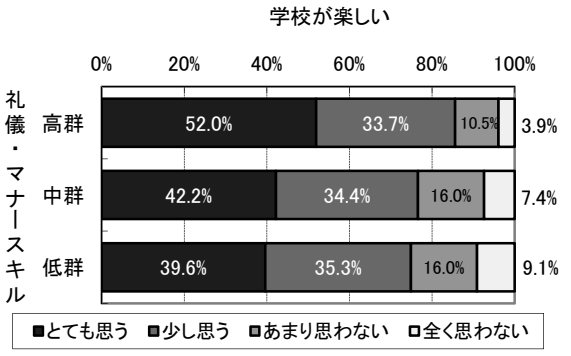


図3.4.242　健康管理スキルと「勉強は得意な方だ」の関係

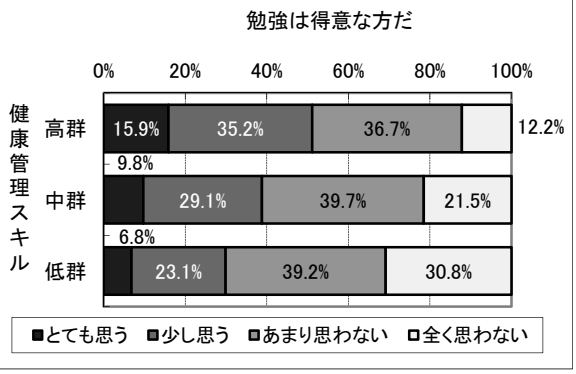
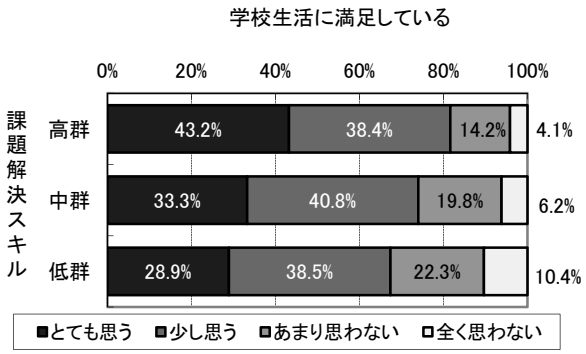


図3.4.252　課題解決スキルと「学校生活に満足している」の関係



・　生活スキルと将来に対する意識に関する回答を見ると、「コミュニケーションスキル」が高いほど「早く結婚・仕事がしたい」、「家事・暮らしスキル」が高いほど「早くひとり暮らしがしたい」及び「課題解決スキル」が高いほど「早く子どもが欲しい」などで、それぞれ「とても思う」割合が高い傾向が見られる。

　また、高校生の卒業後の予定進路については、「課題解決スキル」が高いほど大学への進学を希望している割合が高い傾向が見られる。

図3.4.256　コミュニケーションスキルと「早く結婚がしたい」の関係

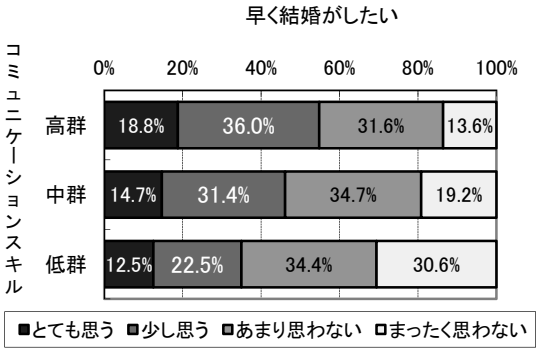


図3.4.258　コミュニケーションスキルと「早く仕事がしたい」の関係

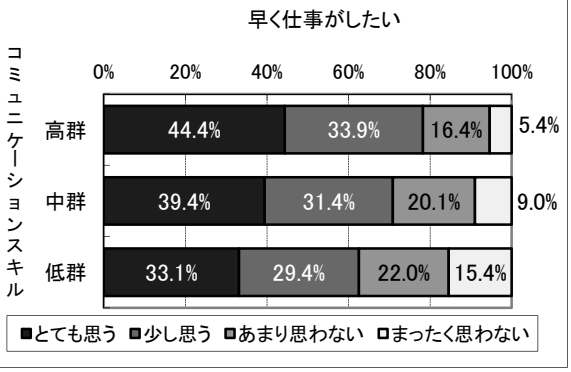


図3.4.271　家事・暮らしスキルと「早くひとり暮らしがしたい」の関係

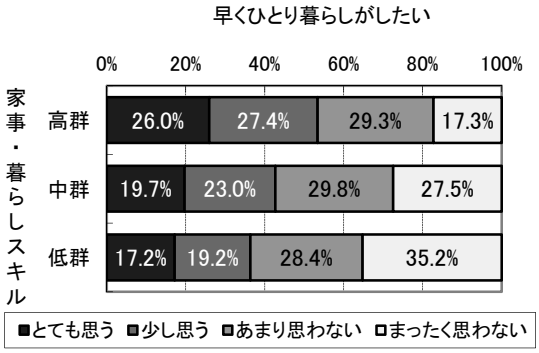


図3.4.281　課題解決スキルと「早く子どもが欲しい」の関係

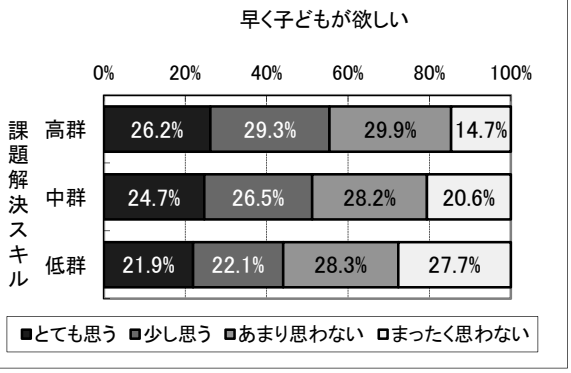
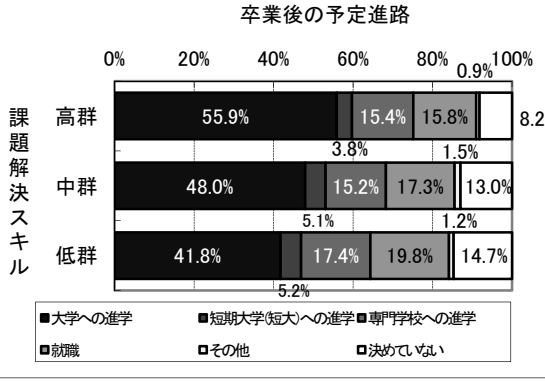


図3.4.285　課題解決スキルと卒業後の予定進路の関係



（参考）20 代～60 代の成人 5,000 名を対象とした生活スキルに関する web 調査

若い世代ほど結婚している割合が低くなっていると言われている中で、若い世代ほど生活スキルの高低が結婚しているかどうかに関連している状況が見られる。一方、50 代～60 代については、生活スキルと結婚について関連は見られない。

図3.補.12　コミュニケーションスキル（20歳時）と結婚の有無の関係

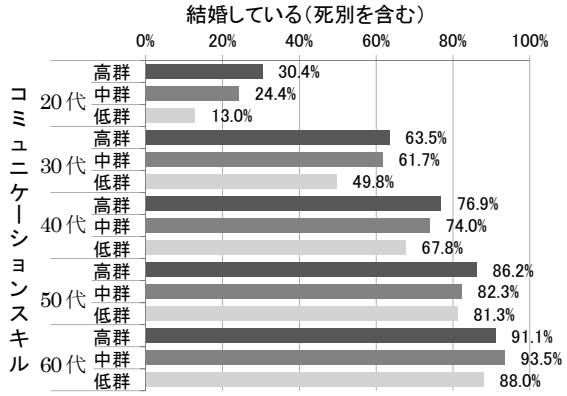


図3.補.13　礼儀・マナースキル（20歳時）と結婚の有無の関係

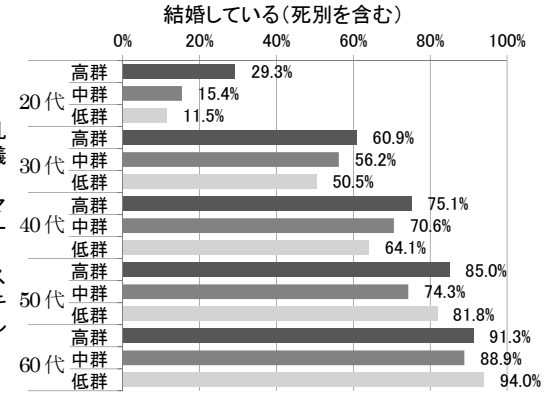


図3.補.14　家事・暮らしスキル（20歳時）と結婚の有無の関係

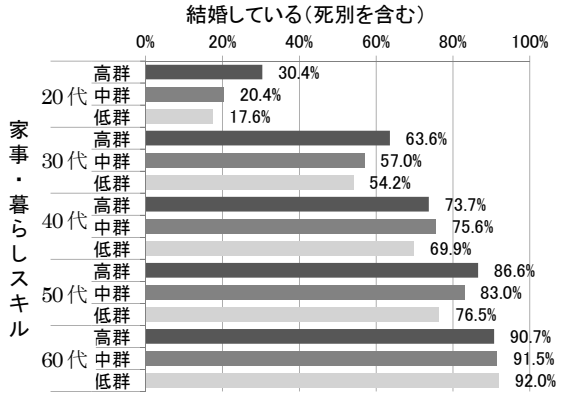


図3.補.15　健康管理スキル（20歳時）と結婚の有無の関係

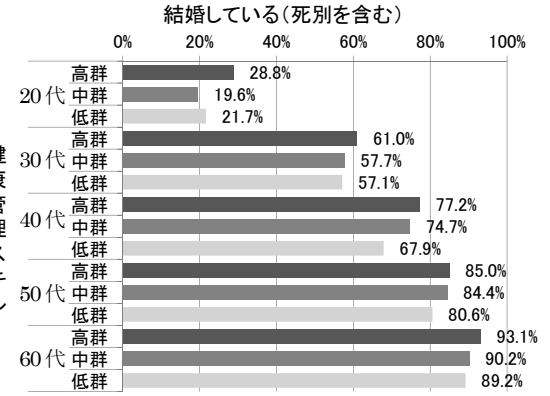
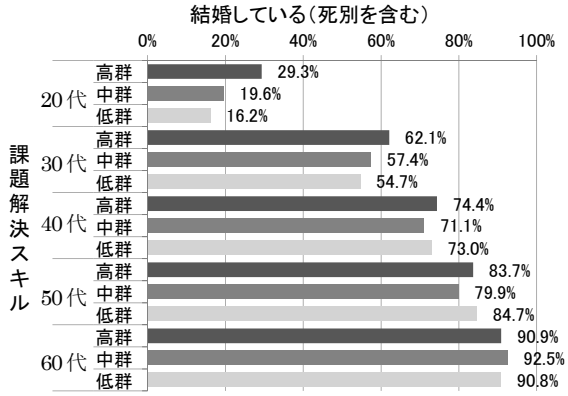


図3.補.16　課題解決スキル（20歳時）と結婚の有無の関係



20 歳までにボランティア経験がある男性は、その経験がない男性に比べて、20 歳時のすべての生活スキルが高い傾向が見られる。

20 歳までにボランティア経験がある女性は、その経験がない女性に比べて、20 歳時の「家事・暮らしスキル」を除く生活スキルが高い傾向が見られる。

図3.補.29　20歳までのボランティア経験の有無と
コミュニケーションスキル（20歳時）の関係

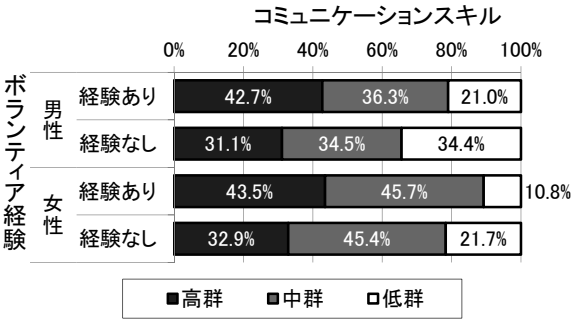


図3.補.30　20歳までのボランティア経験の有無と
礼儀・マナースキル（20歳時）の関係

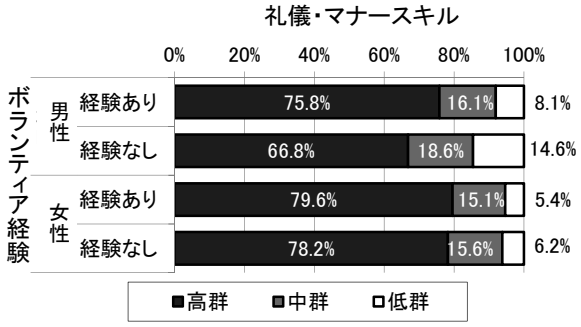


図3.補.31　20歳までのボランティア経験の有無と
家事・暮らしスキル（20歳時）の関係

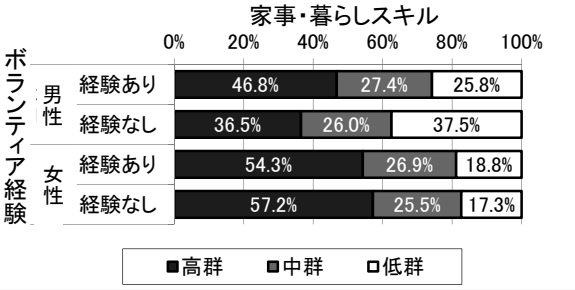


図3.補.32　20歳までのボランティア経験の有無と
健康管理スキル（20歳時）の関係

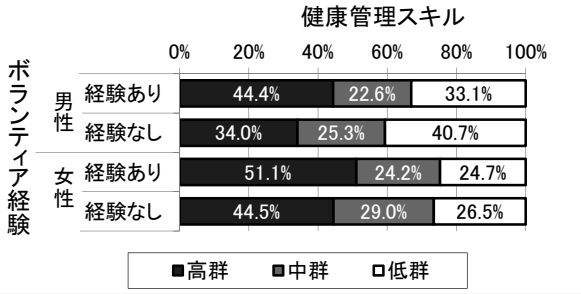
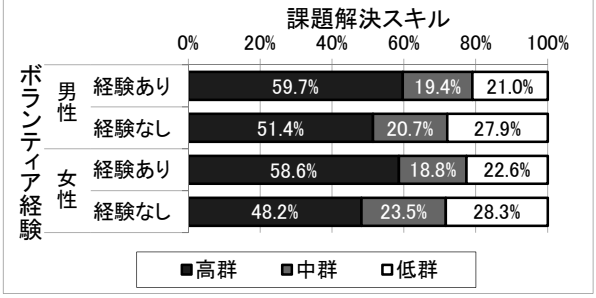


図3.補.33　20歳までのボランティア経験の有無と
課題解決スキル（20歳時）の関係



30 歳までに子育て経験がある男性は、その経験がない男性に比べて、30 歳時の「コミュニケーションスキル」「礼儀・マナースキル」「課題解決スキル」が高い傾向が見られる。

30 歳までに子育て経験がある女性は、その経験がない女性に比べて、30 歳時の「礼儀・マナースキル」「健康管理スキル」「課題解決スキル」が高い傾向が見られる。

図3.補.34　30歳までの子育て経験の有無とコミュニケーションスキル（30歳時）

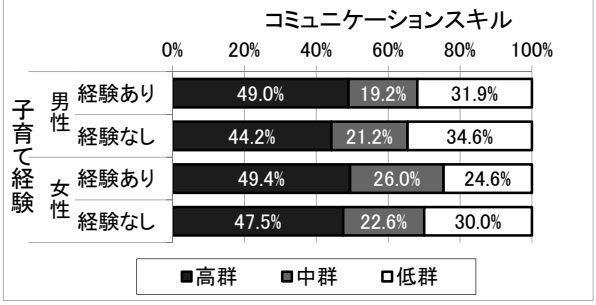


図3.補.35　30歳までの子育て経験の有無と礼儀・マナースキル（30歳時）

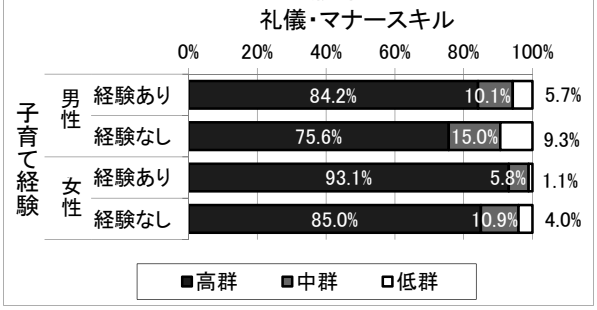


図3.補.36　30歳までの子育て経験の有無と家事・暮らしスキル（30歳時）

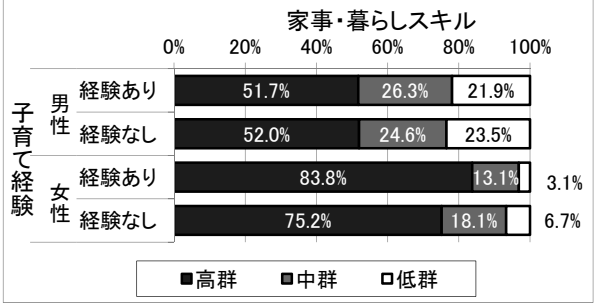


図3.補.37　30歳までの子育て経験の有無と健康管理スキル（30歳時）

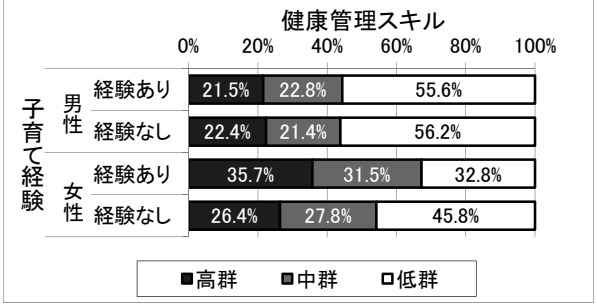
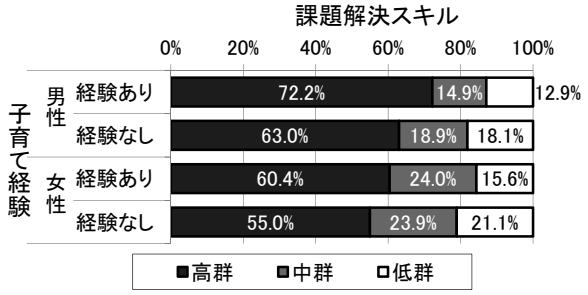


図3.補.38　30歳までの子育て経験の有無と課題解決スキル（30歳時）



調査結果のまとめ

本調査の意義と課題　～生活スキルと体験活動に注目して～

青山鉄兵（文教大学専任講師・国立青少年教育振興機構客員研究員）

1.「生活スキル」に注目することの意味

本調査では、子供の「生活スキル」に注目し、子供のスキルの実態や、それらと日頃の体験や生活環境等との関連について分析を行った。「生活スキル」に注目することの意味について、特に体験活動との関連からは、以下の 2 点が挙げられる。

第 1 に、それぞれの生活スキルが、体験活動を通じて具体的に身につく成果として捉えられることである。これまで、子供の体験活動の実態等に関する調査の中で一貫して課題となってきたのは、体験活動の具体的な成果が見えにくい、という問題であった。子供の頃の体験が、大人になってからの様々な資質・能力と関係があるということは指摘されてきており、それ自体は当然のこととも言える。しかし、「生きる力」などの抽象的な概念が教育政策のスローガンとして掲げられる一方で、体験が具体的にどのような資質・能力に結びついているのかについての実証的なデータの蓄積は十分とは言えない状況にある。本調査において、具体的な「生活スキル」の実態に注目することは、体験活動の成果を目に見える形にするための作業としても位置付くものである。

第 2 に、生活スキルの習得状況に関するデータが、子供の体験活動を推進する上で、どのような体験を、いつ頃にさせるべきか、について検討するための基礎的なデータとなりうることである。本調査では、平成 21 年に年齢期ごとの体験活動の実態についてのデータを収集した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」の問題意識を引き継ぎ、各年齢期において各スキルがどのように習得されているかについてのデータを収集している。

子供の体験不足が指摘される中で、以前であれば意図せずにできた体験であっても、意図的に体験できる環境を提供することが求められているが、その際に問題となるのは、どのような体験をいつ頃するのがよいのか、という問題である。上述の「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」もこうした問題を強く意識したものであったが、本調査は、同様の問題を「生活スキル」の側から捉え直そうとするものと言える。こうした「体験」と「スキル」の双方に関するデータの収集・蓄積を継続するとともに、年齢期に応じた子供の体験活動の推進に関するガイドライン等についての検討が深められていくことが期待される。

2. 子供の「生活スキル」を育むために

本調査においては、調査結果の分析をもとに、生活スキルを構成する要素として、「コミュニケーションスキル」「礼儀・マナースキル」「家事・暮らしスキル」「健康管理スキル」「課題解決スキル」の 5 つを抽出した。

これまで見てきた通り、こうした生活スキルを有しているかどうかは、子供たちの学校・家庭・地域における生活や、将来に関する意識等と、様々な関連が見られることが確認された。特に、本調査の関心から注目されるのは「ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと」や「ふだんから地域の行事に参加すること」及び家庭でのお手伝いなど、日頃から様々な体験を豊富にしている子供ほど、生活スキルが高い傾向が見られたことである。

そもそも、本調査で取り上げた様々な生活スキルは、習得過程において「やってみないと身につかないこと」であると言える。その意味で、それぞれのスキルが「できる」という回答は「したことがある」という側面も併せ持っている。様々な体験を豊富にしている環境にある子供は、結果としてそれぞれの体験に関連した様々なスキルを身につける機会にも恵まれていることが推測され

る。
　このような生活スキルの習得に関わる体験については、従来、主に「しつけ」の一部として家庭で身につけることが期待される一方で、近年では、そうした体験を提供できる家庭と、できない家庭の「格差」の問題が指摘されてきた。こうした背景には、子供の育つ環境の変化によって、生活スキルに結び付くような体験が、「自然にできること」から「わざわざ（意図的に）させること」へと変化してきたという状況も存在する。
　本調査においても、保護者が子供の体験を支援するような関わりをしているかどうかや、保護者自身が生活スキルを身につけているかどうかといった、家庭ごとの子育て環境によって、子供の生活スキルの習得状況が異なる状況が見られた。こうした結果からは、これまで指摘されてきた通り、生活スキルの習得において家庭が果たす役割の重要性と、その結果としての「格差」の生じやすさを改めて確認することができる。
　近年、こうした問題意識を受け、青少年の健全育成や家庭教育支援の観点から、子供たちが様々な体験ができる機会を、社会の中で意図的・計画的に提供するための施策が推進されている。本調査の結果は、こうした家庭・学校以外の場所での体験活動の推進が、生活スキルの育成という観点からも意義を持つものであることを示していると言えよう。これまで推進されてきた家庭・学校・地域が連携した子供の体験活動の推進施策をより一層充実させていくことが望まれる。

3. 今後の課題

　本調査の結果を受けて、生活スキルと体験活動に関する今後の課題としては以下の 2 点が挙げられる。

①生活スキル習得に向けたガイドラインの作成

　第 1 に、本調査で見てきた子供の生活スキルの習得状況等を踏まえて、先に述べたような、子供たちがいつ、どのような体験をするべきかについての指針を作成することである。既に見たように、こうしたスキルの習得について、意図的・計画的な支援が求められる状況においては、支援施策を推進する上でのガイドラインの必要性は高まっていると考えられる。
　とはいえ、本調査で見てきたのは子供の生活スキルの習得状況の実態であって、調査結果に見られる子供のスキル習得の実態は、今後の指針を考える上での 1 つの基準にはなりえても、それが身につけるのに望ましい内容・時期であるとは限らないという問題がある。また、現在の日本の子供の生活スキルが他の世代や、他の国の子供と比べて高いのか低いのかといった点についても、今後のデータの蓄積が求められるであろう。
　特に生活スキルの世代間比較については、web 調査結果を元に試行的に集計を行っているが、調査の方法に関する課題として、生活スキルの実態把握を回答者の記憶に依存しているという問題がある。本調査においては、一人ひとりの回答者に対して、それぞれのスキルを過去の年齢期ごとに「できていた」かどうかを質問している。この方法は、一人ひとりの生活スキルの習得過程を把握しやすいというメリットがある一方、回答の多くが回答者の記憶に依存するため、回答に偏りが生じやすいというデメリットを避けることができていない。この点については、定期的に同様の調査を行い、経年比較が可能なデータを蓄積していくとともに、同一の調査対象者に対する追跡調査等をしていくことも考えられる。また、国際比較調査については、各国の文化的な差異を踏まえた調査項目の選定が課題となろう。

②生活スキルを検定する仕組みの開発

　第 2 に、より実践的な課題として、上記のガイドラインの作成と平行して、本調査で取り上げたような生活スキルを、それぞれの子供たちがどの程度身につけているかを教育現場等で確認できる仕組みを開発することが挙げられる。具体的には、生活スキルに関する検定制度の構築等が考えられるが、これらは子供の体験活動やスキル習得に向けた動機付けになるとともに、発達段階ごとに身につけるべき生活スキルを、子供自身や保護者、教育関係者に対して、より具体的な形で示すための手段としても意義があると思われる。

こうした点を踏まえ、既に本研究会では就学前の子供を対象に実際に生活スキルをどの程度身につけているかを把握できる「幼児版生活力チャレンジ」を開発し、国立青少年教育振興機構のいくつかの施設で試行した。また、複数の青少年団体で構成されるアウトドアチャレンジ協議会が展開する「野外力検定」事業等、関連領域における先行事例も散見される。

こうした事例を踏まえ、学齢期の子供に対しても、生活スキルの習得状況を把握できる仕組みを検討していくことが求められる。ここでは、既に見た「幼児版生活力チャレンジ」と同様、具体的な教育実践を展開しながらデータを収集し、継続的な実践研究を行っていくことが重要になると考えられる。

以上、生活スキルと体験活動の関係に注目しながら、本調査の意義と課題について整理を行った。本調査結果が、今後の青少年教育の研究と実践の双方に活用されることを期待したい。

調査研究の概要

1.　調査の目的

現在の青少年の「生活力」の実態を把握するとともに、「生活力」が体験活動や生活環境、保護者との関係等にどのように関係しているかについて明らかにし、「生活力」の向上を目指して実施される体験活動の在り方を考察するための基礎資料を得ることを目的とする。

2.　調査内容

＜子供調査＞
・　年齢期ごとの生活スキル
・　自然体験、お手伝い
・　ふだんの生活の様子
・　学校生活と自分についての意識　等

＜保護者調査＞
・　年齢期ごとの生活スキル
・　生活スキルの重要度
・　保護者の子供との関わり
・　保護者の子供に対する意識　等

3.　調査方法

①　調査対象
＜子供調査＞
・　全国公立小学校４年生から高校生　17,282 名
内訳　小学校 4 年生　2,683 名（回収率 91%）
小学校 5 年生　2,632 名（回収率 87%）
小学校 6 年生　2,546 名（回収率 86%）
中学校 2 年生　4,422 名（回収率 89%）
高等学校 2 年生　4,999 名（回収率 92%）

＜保護者調査＞
・　全国の公立小学校 4 年生・5 年生・6 年生の保護者　7,834 名
内訳　小学校 4 年生の保護者　2,688 名（回収率 91%）
小学校 5 年生の保護者　2,637 名（回収率 87%）
小学校 6 年生の保護者　2,509 名（回収率 86%）

②　調査方法　学校を通した郵送法による質問紙調査

③　調査期間　平成 24 年 9 月 20 日～10 月 26 日

（参考：事前調査（web 調査））
①　調査対象
・　20 代～60 代の成人　5,000 名
内訳　各年代で男女各 500 名

② 調査方法　ウェブアンケート調査

③ 調査期間　平成 23 年 3 月 23 日～3 月 26 日

④ 調査内容
- 年齢期ごとの生活スキル
- 生活スキルの重要度
- 職業、学歴、年収、ボランティア経験、子育て経験、結婚、子供の数等

4. 研究会

座長　明石　要一　千葉敬愛短期大学学長
　　国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター長
　　青山　鉄兵　文教大学人間科学部専任講師
　　国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員
　　岩崎久美子　国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官
　　金藤ふゆ子　文教大学人間科学部教授
　　鈴木みゆき　和洋女子大学人文学群教授
　　茅野　敏英　日本大学文理学部教育学科非常勤講師
　　土屋　隆裕　統計数理研究所准教授
　　中村　和彦　山梨大学教育人間科学部教授
　　吉田伊津美　東京学芸大学総合教育科学系准教授

調査研究協力者
　　鈴木　　翔　秋田大学助教・東京大学大学院博士課程

（所属は平成 27 年 5 月現在）

参考：主な質問項目

＜子供調査＞

１．年齢期ごと（小・中・高等学校入学時、現在）の生活スキル

［コミュニケーションスキル］

・　友だちの相談にのったり、悩みを聞いてあげること
・　自分と違う意見や考えを、受け入れること　等

［礼儀・マナースキル］

・　「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと
・　遅刻しないで学校にいくこと　等

［家事・暮らしスキル］

・　ナイフや包丁でりんごの皮をむくこと
・　お金を計画的に使うこと　等

［健康管理スキル］

・　ふだんから積極的に体を動かすこと
・　夜ふかしをしないこと　等

［課題解決スキル］

・　一つの方法がうまくいかなかったとき、別の方法でやってみること
・　目標達成に向けて努力すること　等

［その他］

・　マッチに火をつけること
・　25 メートル泳ぐこと　等

２．体験活動

・　ふだんから山や森、川や海など、自然の中で遊ぶこと
・　ふだんから地域の行事に参加すること
・　ふだんから外国の子どもや大人と話したり、一緒に遊んだりすること
・　買い物のお手伝いをすること
・　新聞や郵便物をとってくること
・　靴などをそろえたり、磨いたりすること　等

３．ふだんの生活の様子

・　あなたは現在、以下のような学校の部活動に所属していますか
・　あなたには、１週間のうちで、塾（勉強以外のおけいこ事は除きます）がある日がどれくらいありますか
・　あなたは、青少年の団体に所属したことがありますか
・　あなたの得意な教科はどれですか　等

４．学校生活と将来についての意識　等

・　クラスに男子の友だちが多い方だ
・　勉強は得意な方だ
・　今の自分が好きだ
・　早く結婚がしたい
・　早く仕事がしたい　等

＜保護者調査＞

１．年齢期ごと（10 歳・20 歳）の生活スキル

・　＜子供調査＞と同様

２．生活スキルの重要度

・　各生活スキルについて、大人になる上でどれくらい身につけておくべきだと思いますか

３．保護者の子供との関わり

［体験支援］

・　自分の体験したことを話している

・　子どものやりたいことをできるだけ尊重している　等

［叱咤激励］

・　よく「もっとがんばりなさい」と言っている

・　よく小言を言っている　等

［子育て満足度］

・　現在の子どもの状況に満足している

・　子育てはある程度上手くいっていると思う　等

［生活指導］

・　学校のない日にも早寝早起きをさせている

・　一日三食きちんと食事させている（給食を含む）　等

４．保護者の子供に対する意識

［社会的達成重視］

・　将来は社会的な地位や名誉のある人間になってほしい

・　世の中の競争に勝ち残ってほしい　等

［体験重視］

・　ボランティア体験をしてほしい

・　自然の中で様々な体験をしてほしい　等

［対人関係重視］

・　人に対して思いやりをもってほしい

・　コミュニケーション能力をつけてほしい　等